学校番号	411

平成 31 年度　芸術科（書道）

（普通科）

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	書Ⅰ（教図）						
副教材等	ペン字実務（日本書道教育研究会）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

中国、日本の文化の歴史的背景を踏まえて、書の起源から和洋の書や現代の書への流れを学び、用具用材による表現の違いも理解して、自己表現をしていきます
書を愛好する心情を育てながら、実用につなげ、現代の文化へ発展できることを目指します

2　学習の到達目標

書の幅広い学習活動を通して審美眼を養い、感性を高めるとともに、創作・作業活動から自己の在り方を考えつつ、現代の文化に即した自己表現の方法を培い育てる

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に創造的学習活動に取り組もうとする	感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している	創作・活動を通して、基礎的な能力を発展させ、表現の技能を会得する	書の伝統と文化やその多様性について学び、幅広く理解すると共に鑑賞の能力を養う
評価方法	・学習活動への参加状況や態度の観察 ・学習記録（ノート） ・学習成果（作品）	・学習態度の観察 ・作品構想過程の記録（ファイル） ・学習成果（作品）	・学習成果（作品）	・学習記録（ノート） ・レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	漢字の書	・用具用材の学習 ・書体の変遷 ・古典の学習 楷書　九成宮禮泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛橛造像記 鄭義下碑 行書　蘭亭序 風信帖 草書　真草千字文 隷書　曹全碑 篆書　泰山刻石	○ ○	○	○	○	a:書体の変遷や用具用材の学習を通じて書写から書道への相違点に気づき意欲的に取り組もうとしている b:用具用材の使い方を工夫して表現につなげている c:書写の基本を発展させ技能を高めている d:古典の時代背景を理解して鑑賞している	・観察 ・ノート ・作品
2学期	篆刻	・篆刻 朱文の名前印	○	○	○	○	a:印稿作りによって方寸の美への関心を持ち意欲的に取り組もうとしている b:分間布白等を理解し印稿を工夫している c:布字、運刀の技能とともに集中力を養う d:印影を鑑賞し、その美を理解する	・観察 ・ファイル ・作品 ・レポート
	仮名の書	・仮名の成立 ・基本的筆使い 平仮名 変体仮名 連錦 ・古筆 蓬莱切 高野切　　他 ・創作 三色紙　　(散らし書)	○ ○	 ○	○	○ ○	a:日本の書への関心を持ち積極的に表現技法を習得しようとしている b:字母から平仮名への筆使いを工夫している c:筆使いを身につけ古筆を再現できている d:墨色の変化や流動美を理解して鑑賞している	・観察 ・ノート ・作品

3学期	漢字仮名交じりの書	・伝達から表現、実用への展望 　年賀 　表書 　色紙 ・詩文を書く ・相互批評会	○	○ ○	○ ○	 ○ ○	a:現代の書への関心を持ち、自ら表現に取り組もうとしている b:自ら意図に基づく工夫を活かしている c:漢字の書や仮名の書で学んだことを元に組み合わせて、実用に活かす技能を発揮させる d:暮らしの中に書を活かすことを理解し、美の多様性を味わう	・観察 ・ファイル ・作品 ・レポート ・ノート

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。